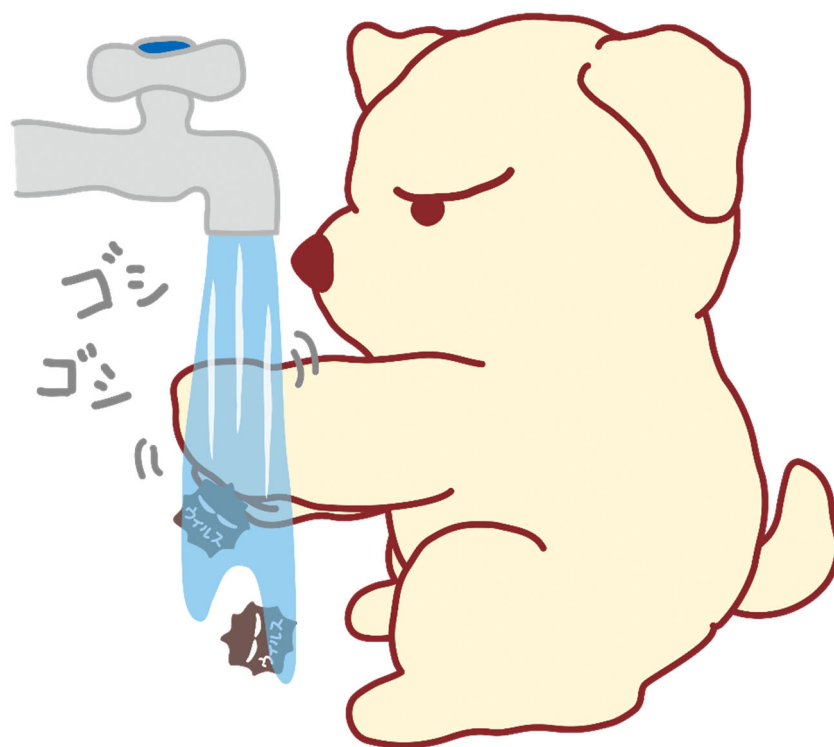


2021 年度  
新入生 3000 名への  
オンライン救命講習会報告書



2021/06/10

救命救急講習 Project TEAM 作成

## 目次

I. 背景	1
II. 理念	1
III. 目的	1
IV. 方法	2-4
V. 結果	5-15
VI. まとめ	16-17
VII. 救命救急講習 Project Team メンバー	17
VIII. 謝辞	18
IX. 参考文献	18
X. 資料	
サポートインストラクター用手順書	

## I. 背景

心停止に陥った人を救命するためには、迅速な心肺蘇生の実施と自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator, AED) の使用が極めて重要である。<sup>1</sup> 京都大学構内にも 120 台以上の AED が設置されているが、心停止になった人が亡くなった事例が発生している。学生および教職員にとって安全なキャンパスライフや就業環境を作るためには、教職員、在学生に加え、新たに京都大学に加わる新入生も心停止患者に遭遇した際の対応方法を身に付けた人材育成は不可欠である。

京都大学では、H27 年度から医学研究科・人間健康科学科、環境安全保健機構、医学部附属病院 初期診療・救急科・救急部、国際高等教育院と連携を図り、新入生へのガイダンスにおいて新入生約 3 千人を対象に、胸骨圧迫と AED の使い方を指導する救命講習会を始めた。<sup>2</sup> この講習会では、人が倒れた場面、特に心停止場面に遭遇した際の救命処置のスキルを学生が習得するのみならず、困っている人に手を差し伸べる学生の人間性を育むことも学習の目標にしている。この取組みは、「京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。」本学の教育理念にも一致しているものである (<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/operation/ideals/basic>)。

R2 年度は COVID-19 感染拡大により実施することが出来なかったが、H27 年度から始めたこの取組みによって R3 年度 4 月現在、京都大学の学生約 18,000 人が胸骨圧迫と AED の使い方を学んだ。この講習会を受講した学生を対象に心停止現場への遭遇の有無を調査したところ、学部 4 年間に於いて 25 人に 1 人が心停止現場に遭遇し、遭遇した学生の 2 人に 1 人は何らかの救命処置を行っていることが明らかになった。<sup>3</sup> これまで市民が心停止現場に遭遇する頻度を明らかにした研究がないため、この頻度が高いのか低いのかを直接論じることはできないが、大学生活において学生が心停止現場に遭遇することはあるため、心停止を他人事と思わず救命処置のスキルを継続して指導することは一定の価値があると考えられる。R3 年度も COVID-19 感染拡大中であったため、対面での講習会に代わり、初めてオンラインにて救命講習会を行った。以下にその内容を記載する。

## II. 救命講習会の理念

この講習会では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与え、困っている人に手を差し伸べる人間性を育むことを目的としている。またサポートスタッフ教員のもと、新入生は小グループでコミュニケーションをとる機会を得ることで交友関係の足掛かりになるようにする。

## III. 救命講習会の目的

1. 心肺蘇生の実施や AED を使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに 119 番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AED を使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. ブレイクアウトルームを用い、同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとることが出来る。

4. Zoom を用いた講習会を行うことで、Zoom 操作の練習を兼ねオンライン授業への足掛かりにすることが出来る。

#### IV. 救命講習会実施方法

##### 1. 対象

R3 年度京都大学に入学予定の全学部生 2,942 人

##### 2. 実施日時

R3 年 4 月 2 日(金)、4 月 5 日(月)、4 月 6 日(火)に行われるオンライン新入生ガイダンスにおいて、以下のタイムテーブルにもとづき学部(学科)ごとに計 6 回の講習会を行った。

13:00-13:50: 1 回目救命講習会(約 500 人)

14:00-15:00: 全学ガイダンスおよび全学機構ガイダンス

15:10-16:00: 2 回目救命講習会(約 500 人)

##### 3. 方法

###### 1) 学生のグループ分け

3000 人の新入生を下記のように学部(学科)に分け、1 回の講習で約 500 名、1 日 2 回、全 6 回講習会を行った。

	Zoom	4/2(金)	4/5(月)	4/6(火)
1 回目 講習会 13:00~	①	理学部 (325 人)	文学部 (227 人)	地球工・建築学科 (269 人)
	②	医学部(医) (109 人)	経済学部 (251 人)	物理工学科 (241 人)
2 回目 講習会 15:10~	③	医(人)・薬学部 (193 人)	教育・総合人間学部 (196 人)	電気電子工・情報学科 (235 人)
	④	農学部 (310 人)	法学部 (342 人)	工業化学科 (244 人)

###### 2) Web 会議システムの設定と映像の配信

上記グループ分けを行い、グループごとに PandA サイトを 12 サイト設定、それぞれ Zoom を立ち上げた。教員が講習を行っている様子をカメラで撮影し 2 つの Zoom へ分配配信を行った。

Zoom の参加人数の上限を 500 人に設定した。その理由は、学生 10 名につき教員を 1 名配置し、胸骨圧迫の練習を計画していたため、Zoom に参加する人数は学生人数に教員人数を足した数になる。そのため、いくつかの Zoom では通常設定人数の 300 名ではすべての学生、教員が参加できないため、上限人数を 500 人に増やし対応した。

Zoom を Webinar 形式にしなかった理由は、一方的な映像の配信ではなく、講習会の途中でブ

ブレイクアウトルーム機能を使い、学生とインタラクティブなやり取りをこの講習会の中で行うことを考えたためである。

### 3) ネット環境が整っていない学生への対応

学生は原則、自宅等から Zoom にログインすることを呼びかけたが、新生活においてネット環境が整っていない学生がいることが予測された。そこで、吉田南 4 共 30 をオンラインガイダンス視聴会場として準備した。

## 4. 教育プログラム

使用する物品、教員の配置などを工夫することで、対面で行っていた指導内容を変更しなかった。ただし、講習会の最後に COVID-19 流行時期における救命処置について追加で指導を行った。

### 1) 学生に準備をしてもらった物品

R1 までは心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん<sup>®</sup>」を準備し、2 人で 1 個使用していたが、今回あっぱくん<sup>®</sup>が利用できないため、代わりに下記のを各自準備するように周知をした。

- ① 座布団・枕・ぬいぐるみ・クッションなどしっかりと押せるもの 1 個（胸骨圧迫の練習）
- ② カード類 2 枚（AED パットの代わり）
- ③ 体重計（胸骨圧迫の強さを可視化するため。ただし必須ではない）

### 2) 時間割

胸骨圧迫と AED の使い方を 1 人につき 1 体のトレーニングキットを用い、45 分間で多人数に対して指導を行う教育プログラムは、科学的検証を行い確立されている。<sup>4</sup>

今回はこのプログラムをベースに、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて学生を少人数グループに分け、サポートスタッフの教員による見守りのもと胸骨圧迫の練習を行った。また、COVID-19 流行時期における救命処置の説明を加え 50 分で行った（詳細は X. 参考資料「サポートスタッフ手順書」参照）。

Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用した胸骨圧迫を練習する場面では、学生を少人数（学生 10 名に対して教員 1 名）に分け、ブレイクアウトルームに配属された教員は、学生が指導された通り胸骨圧迫を実施できているかを確認した。

### 3) 教員の役割

人間健康科学科全ての教員および、Project Team メンバーを以下 5 つの役割に分けた。

#### ① インストラクター

各日 1 名合計 3 名を配置し、講習会においてメインで指導を行うもの。インストラクターは、あっぱくん<sup>®</sup>を使った講習会を日ごろから実施し、心肺蘇生教育に慣れている熟練指導者とした。

#### ② インストラクター補助

インストラクターの補助を行うもの。

### ③ サポートスタッフ

ブレイクアウトルームでは学生 10 名につき 1 名のサポートスタッフを配置した。サポートスタッフは、ブレイクアウトルームの間、学生同士の自己紹介を誘導し、胸骨圧迫の実施を促すもの。

### ④ ブレイクアウトルーム時のグループ分け係

ブレイクアウトルーム時に学生約 10 名に対して教員 1 名が配置されるように Zoom の操作を行うもの。

### ⑤ インターネット環境がない場合の視聴場所対応係

吉田南 4 共 30 に集まった学生に対し、感染対策を行いながら、オンライン講習会を誘導するもの。

## 4) 手順書の作成と FD での事前説明

救命講習会に携わる全ての教員に、この講習会の理念、目的、方法を知ってもらうために手順書を作成した。救命講習会の約 2 週間前、R3 年 3 月 18 日(木)の FD にて、全教員に手順書を見ながら説明を行った。

全ての教員にとって Zoom を使ったオンライン救命講習会は初めての経験であった。少しでもイメージしてもらうため、FD において手順書を配布して説明するだけでなく、教員にクッション等を準備してもらい、ブレイクアウトルームを行い、学生の役割を体験してもらうことでイメージを持ってもらった。

## 5) ブレイクアウトルーム時のグループ分け係への事前説明と事前練習

Zoom のランダムにグループに分ける機能を使用して、当日 Zoom にログインした学生および教員を学生 10 名につき教員 1 名が 1 つのグループになるように短時間で操作する必要があった。ブレイクアウトルームの操作に慣れるために、R3 年 3 月 18 日(木)の FD で Zoom 操作を行ったり、事前に打ち合わせを繰り返して本番に臨んだ。

## 6) オンライン配信のリハーサル

インストラクターを担った 3 名のインストラクションの質が異なるように、インストラクター間で進行について事前打ち合わせを行った。また Zoom 配信のためのカメラ、音響については、情報環境機構と協力して R3 年 2 月 12 日(金)、3 月 16 日(火)、4 月 1 日(木)の 3 回にわたりリハーサルを繰り返した。

## V. 結果

### 1. 参加状況 (Zoom へのログイン人数、映像配信教室、吉田南 4 共 30 を元に算出)

4月2日(金)						
	学部・学科	学生数		教員数		
		Zoom	4共30	Zoom	4共30	映像配信教室
1回目 講習会 13:00 ～	理学部 (325人)	267	35	39	4	10
	医学部(医) (109人)	109		15 (3)		
2回目 講習会 15:10 ～	医(人)・薬学部 (193人)	163	13	21 (1)	4	9
	農学部 (310人)	265		32		
4月5日(月)						
1回目 講習会 13:00 ～	文学部 (227人)	188	17	22 (1)	4	9
	経済学部 (251人)	218		24		
2回目 講習会 15:10 ～	教育・総合人間学部 (196人)	168	15	18 (1)	4	9
	法学部 (342人)	291		32		
4月6日(火)						
1回目 講習会 13:00 ～	地球工・建築学科 (269人)	224	24	27	4	10
	理工工学科 (241人)	212		24		
2回目 講習会 15:10 ～	電気電子工・情報学科 (235人)	198	7	22 (1)	4	10
	工業化学科 (244人)	209		24		
合計		2,512	111	307 (7)	24	57
			2,623		388	



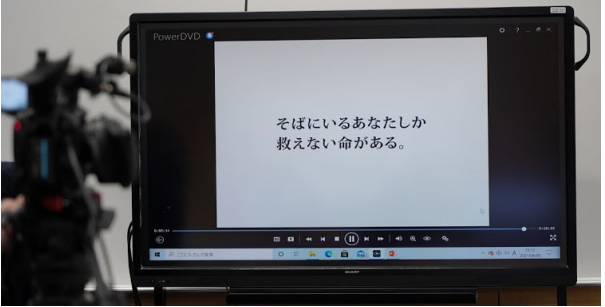
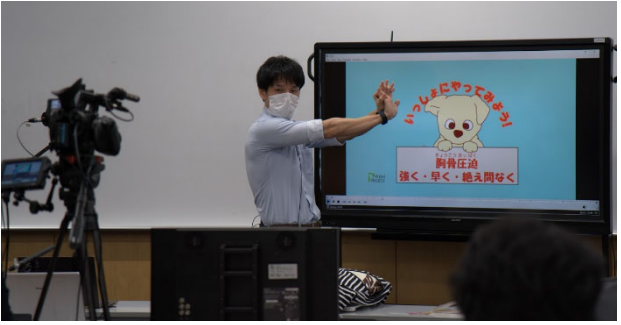
カッコで示している教員の数、国際高等教育院の先生方の人数




## 2. 講習会の様子

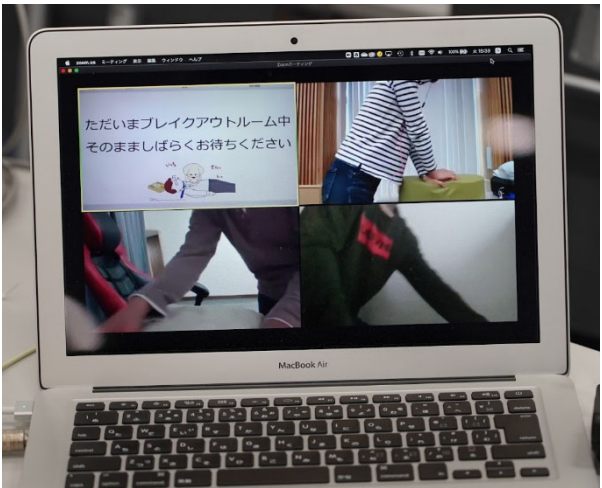


### 1) Zoom での配信の様子

<p>開始前の映像配信準備</p>	<p>情報環境機構の方に Zoom の立ち上げ、映像配信の準備をしていただいた。カメラで撮影した映像を、2 つの Zoom へ同時に配信した。</p>	
<p>準備物品の確認</p>	<p>胸骨圧迫の練習をするために使う、①座布団・枕・ぬいぐるみ・クッション、②AED パットの代わりにカード類 2 枚、③胸骨圧迫の強さを可視化するための体重計が準備できているかまず確認した。</p>	<p>カメラでインストラクターが説明している様子を撮影</p> 



		<p>カメラで撮影されている様子は、学生の Zoom 画面では下記のように見えている。</p> 
<p>教員の紹介</p>	<p>ブレイクアウトルームを担当する教員にカメラを On にしてもらい学生に紹介した。</p>	
<p>メッセージビデオの視聴</p>	<p>心停止で子供を亡くされた親御さんたち、心停止から生還された方たち協力のもと作成した、約 5 分間のメッセージビデオを視聴し動機づけを行った。</p>	
<p>胸骨圧迫</p>	<p>説明用の DVD の映像を一時停止して、インストラクターが手の組み方、胸骨を圧迫する際のポイントを補足した。</p>	

	<p>体重計を準備している学生には、クッションの下に体重計を置き、30kg の力で圧迫できているか確認しながら行うように指導した。</p>	
<p>ブレイクアウトルーム (10 分)</p>	<p>胸骨圧迫の方法について全体で説明を終えた後、学生 10 名、教員 1 名のブレイクアウトルームを作成した。</p> <p>インストラクターの指示でブレイクアウトルーム開始。</p>	<p>ブレイクアウトルームを作成している様子。ブレイクアウトルーム教員が複数名入っていないか、人数はおおよそ均等になっているか目視で確認中。</p>  <p>ブレイクアウトルームの準備が完了すると、インストラクターに合図が出される。</p> 

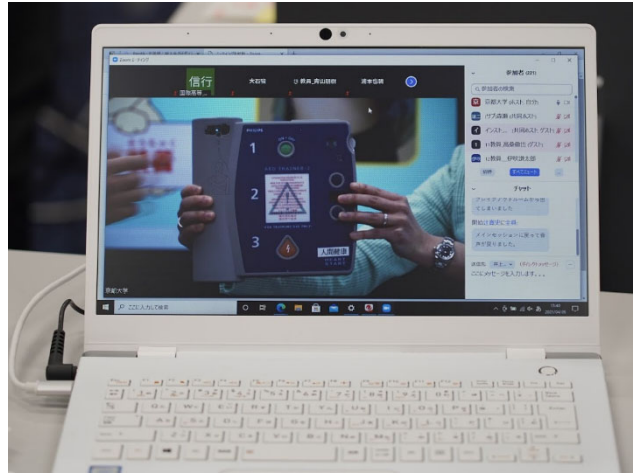
	<p>ブレイクアウトルームでは、できる限りカメラを On にするように伝え</p> <p>①教員の誘導の元、まず自己紹介</p> <p>②教員見守りの元、胸骨圧迫を1分間体験した。胸骨圧迫のリズム(100-120/分)はあらかじめ教員に108/分のメロノーム音源(mp4)を配布していたので、音源を音声共有することで、リズムをとりながら胸骨圧迫の練習を行った。</p>	<p>胸骨圧迫の練習の際には、押している様子が合わるように学生にカメラアングルを整えるように依頼をした。</p> 
<p>AED の使い方</p>	<p>胸骨圧迫同様に、説明用のDVDの映像を一時停止して、インストラクターがAEDパットを貼る位置について自分の体で確認するように促し、場所を覚えてもらった。</p> <p>AEDはトレーナーを準備し、電源の入れ方、AEDパット、実際の音声を聞いてもらった。</p>	 

カメラで AED をアップで撮影してもらおうことで、学生には AED がしっかり見えている。

AED パットは素肌に貼るので、クッションに T シャツを着せることで、AED パットを貼る際のイメージを持ってもらうように工夫をした。

学生には、準備した 2 枚のカードを AED パットと見立て、クッションを倒れている人と見立ててパットを貼るように誘導した。

動作方法をしっかり理解してもらうために、画面いっぱい AED を映し音声も流した。



服の下から AED パットを入れて貼り付けている様子



学生はブレイクアウトルーム以外カメラを Off にしていた。学生の反応がわからない中、指導し続けるのは大変なため、周りにいる教員がスケッチブックにメッセージを書いて励ましていた。



<p>コロナ流行下における救命処置の説明</p>	<p>コロナ流行期において、心停止現場に遭遇した際の対応についてスライドを用いて説明をしてこの講習会を終えた。</p>	
--------------------------	---	--

## 2) 吉田南 4 共 30 の様子

インターネット環境がない学生のための視聴部屋では、Zoom に接続した PC を準備して映像をスクリーンに映して、この部屋にきた学生に講習会を視聴してもらった。

3 日間を通して講習会中に体調不良や怪我を起こす学生はいなかった。



## 3) オンデマンド配信

講習会の様子を録画しておき、Zoom にログインしていたもののネット環境が不安定になり途中から参加できなかった学生、諸事情により当日参加できなかった学生に対し自己学習ができるように教育の機会を担保するようにした。連絡用の Google フォームを設置し、大学の HP と PandA に録画した動画の URL を掲載、後日録画の提供を行った

### 3. アンケート結果

新入生合計 2,393 人からアンケート回答を得ることができた(81.3%)。

#### ①本学入学前の教育課程における、心肺蘇生および AED に関する教育歴

問 1. これまでに、心肺蘇生法や AED の使い方の講習会を受けたことがありますか？

	n=2,393	%
トレーニング人形を用い、 実技をともなう実習形式の授業	1751	73.2
講義のみの授業	433	18.1
今回初めて心肺蘇生の授業を受けた	208	8.7
無回答	1	0.0

問 2. 今まで講習会を受けた方は、どこでその講習会を受けましたか？(重複回答)

	n=2,184	%
小学校	484	22.2
中学校	1257	57.6
高等学校	1455	66.6
運転免許取得時	53	2.4
その他	57	2.6

#### ②講習会内容の理解度

問 3 心停止(もしくはそれを疑う事態)に遭遇した際、どのような救命行動をとればよいのか、  
今回の講習会でその方法を理解することができましたか。

	n=2,393	%
よく理解できた	1827	76.3
どちらかという理解できた	521	21.8
どちらとも言えない	38	1.6
どちらかという理解できなかった	2	0.1
理解できなかった	2	0.1
無回答	3	0.1

③今回の取り組みについて

問4 入学前オリエンテーションで、今回のような Zoom を用いた心肺蘇生法の講習会を行うことをどう思いますか。

	n=2,393	%
有意義だと思う	1338	55.9
どちらかというと有意義だと思う	682	28.5
どちらとも言えない	272	11.4
どちらかというの意味がないと思う	73	3.1
意味がないと思う	27	1.1
無回答	1	0.0

問5 これからも心肺蘇生の方法や AED の使い方を定期的に学びたいと思いますか？

	n=2,393	%
とても思う	838	35.0
どちらかという学びたいと思う	966	40.4
どちらとも言えない	452	18.9
どちらかという学びたいとは思わない	103	4.3
全く思わない	33	1.4
無回答	1	0.0

問6 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとる時間をどう思いましたか。

	n=2,393	%
有意義だと思う	803	33.6
どちらかというと有意義だと思う	620	25.9
どちらとも言えない	512	21.4
どちらかというの意味がないと思う	244	10.2
意味がないと思う	175	7.3
ライブで AED 講習会に参加できなかったのわからない	38	1.6
無回答	1	0.0

問7 救命講習会を受けた感想(寄せられた 402 名からの一部抜粋)

- 新入生みんなを受講することに意義があると思った。もし何かあったら、協力したいと思う。
- 高校で一度 AED 講習を受けましたが、習った内容で忘れていたこともあったので、今回の講習会が復習の機会になってよかったです。

- 実際に自分で胸骨圧迫などを実践したのは初めてでした。体重計を使うと意外と体重がかかっていないことに気づきました。これからも災害の避難訓練と同様、定期的に講習会に参加しもしもの時に行動できるようになりたいと思いました。
- AED の使い方を改めて確認する機会を設けていただき感謝いたします。
- 実際に人形を用いて胸骨圧迫の練習をするのと比べると、Zoom での講習会は、実技の面で得るものが少ないと感じた。しかし、知識の面では得るものが多く、有意義な時間だった。
- 胸骨圧迫では、クッションなどを用い大まかなイメージはつかめたが、実際の胸骨圧迫の大変さ・疲労感を体験することができなかったのが少し残念ではあった。ビデオと実際の実習を組み合わせ合わせた進行は非常にスムーズで、かつリモートでも参加型となり、分かりやすかった。
- キャンパス内は、京大生だけでなく、近隣住民の方なども通行されている様子であったので尚更、いつ突然心停止が起こるか分からないということ覚えておきたい。
- 中学生の時に 1 度 AED 講習を受けたのですが、内容をあまり覚えていなかったので、大学入学というタイミングで再び学ぶことができ助かりました。
- AED を使うことに対して今までならためらってしまったと思うが、この講習を通じてその迷いが減ったように思える。
- 中学高校時代にやったことがあったが、体重計を用いて自分の胸骨圧迫の強さを数値として見られた点が良かった。
- 今後 AED を使う時があった場合の行動について今一度考えることができました。他人事と思わず、すぐに行動できるように、これからも AED などの救急救命について考えようと思いました。
- 大学生になると活動範囲が一気に広がり、その分心停止に遭遇する機会も増える。その時に迷わず声をかけられるように勇気を持つと思った。
- 入学前からこのように普段あまり学ぶ機会がないけど大切なことを学べてよかったです。
- 大学在学中に心停止の現場に遭遇する確率が思ったより高いことに驚き、入学前に心肺蘇生や倒れている人を助けられるよう日頃から勇気ある行動を心がける。
- 最初に見せられたメッセージビデオが、心臓突然死が平凡な生活に潜むことを実感するのに適切であったと思う。
- 今までいろんな AED 講習を受けたが、アフターケアについて触れられたのは初めてで、とてもためになった。
- やはりオンデマンドよりわかりやすかった
- 最初にビデオで実際に起こった心臓突然死の事例を見たことで、心肺蘇生をしなければならない状況を身近に感じ、講習に対する心構えが変わりました。
- 動画を見て泣いてしまって、AED 講習会に臨む心構えがより前向きなものへとなった。
- メッセージビデオや実際の映像を見て少し気分(体調)が悪くなってしまった。

#### 【サポートスタッフへのコメント】

- 先生方が優しく接してくださって緊張がほぐれました。
- オンラインだが、教員に実際に自分の心臓マッサージのやり方を見て指導していただき、正しいやり方が身についたと思う。



- スタッフの方に圧迫の仕方を細かく教えていただけで良かった。

#### 【Zoom の使用】

- 今回初めて Zoom を使ったので、これから授業などで使うための、良い練習になりました。
- Zoom で会話することへの抵抗が薄くなってよかった

#### 【改善を求める声】

- ネットの環境ができるまで、もう少し後に行ってほしいと思った。
- Zoom の顔出しを求めるときは事前に告知すべきだと思う。自分はメイク等を行わないため大きな問題はないが、メイク等を行う人にとっては顔出しか否かの事前告知は必須だと思う。
- もっと本格的な講習を期待していた。せめて動画の中の人にはトレーニング人形を使えばよいのと思った。自己紹介とかするのには、10 分では全く時間が足りなかった。
- 画面を通してではなく、時間が掛かってでも実際に機械等を用い対面で行うべき。

## VI. まとめ

2015年から全新生に対する胸骨圧迫とAEDの使い方を指導する講習会を始めた。2020年はCOVID-19の影響で実施することができなかったが、今回で6回目の実施となった。今回のオンライン講習会を含めて、これまで18,000人の学生が胸骨圧迫とAEDの使い方を学んだことになる。毎年すべての新生を対象に継続して胸骨圧迫とAEDの使い方の教育している大学は日本中どこにもなく、京都大学のユニークな取り組みである。今回、オンラインで胸骨圧迫とAEDの使い方の指導が実現できた背景には、①情報環境機構による全面的なバックアップが得られたこと、②自宅で用意できる資材を教材にしたこと、③Zoomのブレイクアウトルームを活用し、新生の胸骨圧迫の練習をサポートするために学生10人につき1名のサポート教員の協力が得られたことが挙げられる。これらのお陰で、50分という短時間で効率よく3000人という多人数に対して、大多数の新生が意義を感じる胸骨圧迫とAEDの使い方を指導することができた。

オンラインの講習会を受講した学生の98.1%が、心停止に遭遇した際、どのような救命行動をとればよいのか理解することができたと回答した。あっぱくんORが使えない制限があるためオンライン講習会の目的を知識の獲得にしていたが、この目的についてはほぼ達成できたと考える。91.3%の学生が大学に入学するまでに、実技や座学で心肺蘇生について学んだ経験があった。また自由記載では「高校で一度AED講習を受けましたが、習った内容で忘れていたこともあったので、今回の講習会が復習の機会になってよかったです。」「中学生の時に一度AED講習を受けたのですが、内容をあまり覚えていなかったもので、大学入学というタイミングで再び学ぶことができ助かりました。」という反応があった。ほとんどの学生が一度心肺蘇生について習っており、今回の講習会が復習の機会になっていることを考えると、COVID-19が流行している状況下において、オンラインで指導することは次善の策かもしれない。

84.4%の学生が心肺蘇生法の講習会をZoomで行うことを有意義だと感じていた。今回の学習目的を知識の獲得にしていたとはいえ、出来る限り胸骨圧迫を含め手技も理解してもらいたいと考えていた。これまで通り対面であっぱくんORを使用した方法は今回行えないため、どのように胸骨圧迫を体験してもらおうかが一番の課題になっていた。ガイドラインに沿って成人の胸骨を約5cmの深さで圧迫するには体重を30kgかける必要があることは先行研究で分かっていた。そこで、学生に体重計を準備してもらいクッションをその上に置き圧迫している自分の力を可視化することで、あっぱくんORが使えないという弱点を補完することにした。また、その方法の確認についてはブレイクアウトルーム機能を使用し、学生10名につき教員1名を配置して少人数での演習形式を用いたことが良かったのではないかと考える。自由記載では、「中学高校時代にやったことがあったが、体重計を用いて自分の胸骨圧迫の強さを数値として見られた点が良かった。」「実際に自分で胸骨圧迫などを実践したのは初めてでした。体重計を使うと意外と体重がかかっていることに気づきました。」と、クッションや体重計を用いた方法にポジティブな反応を示していた。さらに、「オンラインだが、教員に実際に自分の心臓マッサージのやり方を見て指導していただき、正しいやり方が身についたと思う。」「スタッフの先生方に圧迫の仕方を細かく教えていただけで良かった。」と少人数型の演習を行うことで、胸骨圧迫のスキルも学ぶことができたので学生の満足度も高かったのではないかと考えている。しかし、同時に、「実際に人形を用いて胸骨圧迫の練習をするのと比べると、Zoomでの講習会は、実技の面で得るものが少ないと感じた。」「胸骨圧迫では、クッションなどを用い大ま

かなイメージはつかめたが、実際の胸骨圧迫の大変さ・疲労感を体験することができなかったのが少し残念ではあった。」という反応もあった。オンラインで演習型の教育を行う際には教材を含め限界がある。学習への満足度が上がるように今後もオンラインでの実施方法を検討する。

73.2%の学生が、大学入学までに実技を伴う心肺蘇生の講習を受けており、この数字は講習会を開始した2015年度から比べると確実に増えてきている(2015年度57.5%、2016年度60.4%、2017年度65.4%、2018年度66.9%、2019年度68.8%)。2021年4月から中学校、2022年4月から高等学校において新学習指導要領に基づいた教育が開始される。5新学習指導要領において、いずれの教育課程においても心肺蘇生の実技指導が強化されているため、今後、実技を伴う心肺蘇生の講習の経験を有している新入生の割合が増えてくるのではないかと考えている。

次年度以降、COVID-19感染拡大が終息していることを祈りつつ、救命救急講習 Project Teamメンバーを中心に、国際高等教育院、環境安全保健機構、医学研究科などの関連部局と密に連携を取り、継続してこの取組みが行えるようにしていきたい。

## VII. 救命救急講習会メンバー

2021年度新入生3000名へオンラインの救命講習会の計画立案、運営、サポートスタッフ手順書作成は、救命救急講習 Project TEAMメンバーおよび、人間健康科学系専攻の教員によって行いました。

### 【救命救急講習 ProjectTEAMメンバー】

チームリーダー	石見 拓 (環境安全保健機構 健康科学センター・教授)
サブリーダー	黒木裕士 (医学研究科・人間健康科学系専攻・教授)
チームメンバー	大鶴 繁 (医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授)
チームメンバー	田中真介 (国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	金丸敏幸 (国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	佐藤隆平 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
チームメンバー	小林大介 (環境安全保健機構 健康科学センター・助教)
チームメンバー	江川達郎 (人間・環境学研究科・共生人間学専攻認知・行動科学講座・助教)
チームメンバー	島本大也 (環境安全保健機構 健康科学センター・特定助教)
コーディネーター	西山知佳 (医学研究科・人間健康科学系専攻・准教授)

### 【Zoom ブレイクアウトルーム作成担当、資料作成担当、現場担当サポート教員】

近藤祥子	(医学研究科・人間健康科学系専攻・講師)
森瀬譲二	(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
岡橋さやか	(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
伊藤明良	(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
松尾英将	(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
谷間桃子	(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)

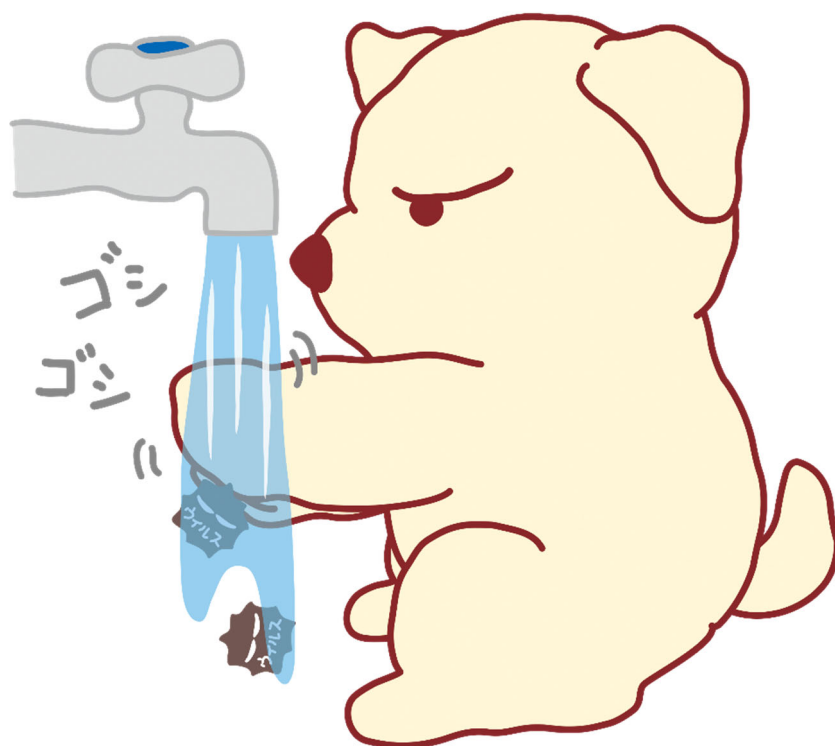
## VIII. 謝辞

今回の講習会を実施するにあたり、ご協力を下さりました国際高等教育院企画調整掛の皆様、企画・情報部 情報推進課 情報環境支援センターの皆様、情報環境機構 情報環境支援センター 森村吉貴准教授、四方 敏明様、学術情報メディアセンター メディア情報分野 元木 環助教、情報環境機構 IT 企画室 岩倉正司様、人間健康科学系専攻教務掛の皆様には厚く御礼申し上げます。

## IX. 参考文献

1. JRC 蘇生ガイドライン 2015、一般社団法人 日本蘇生協議会(監修)、医学書院、2016 年
2. 西山知佳、馬場正昭、黒木裕士、佐藤隆平、川村孝、小池薫、田中真介、内藤知佐子、石見拓. 国立総合大学全新生を対象にした胸骨圧迫・AED 使用法教育. 日本臨床救急医学会誌, 2017.20;682-688
3. Nishiyama C, Sato R, Baba M, Kuroki H, Kawamura T, Kiguchi T, Kobayashi D, Shimamoto T, Koike K, Tanaka S, Naito C, Iwami T. Actual resuscitation actions after the training of chest compression-only CPR and AED use among new university students. Resuscitation. 2019;141:63-68.
4. Nishiyama C, Iwami T, Kitamura T, Ando M, Sakamoto T, Marukawa S, Kawamura T. Long-term retention of cardiopulmonary resuscitation skills after shortened chest compression-only cardiopulmonary resuscitation training and conventional cardiopulmonary resuscitation training: a randomized controlled trial. Acad Emerg Med. 2014; 21: 47-54.
5. 文部科学省. 平成 29・30 年改訂 学習指導要領、解説等 ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)) (最終アクセス 2021 年 5 月 30 日)

2021 年度  
新入生 3000 名への  
オンライン救命講習会  
サポートスタッフ手順書



2021/03/25

Ver. 4

救命救急講習 Project TEAM 作成

## 目 次

I. 救命講習会の理念	1
II. 救命講習会の目的	1
III. 救命講習会実施の概要	1
IV. オンライン救命講習会の日時と学生の Zoom 割り	1-2
V. Zoom を使用したオンライン救命講習会について	2
VI. 役割	2
VII. 役割毎の手順	3-11
VIII. Zoom の担当教員配置表	12-14
IX. オンライン救命講習会時間割り	15

## I. 救命講習会の理念

新入生に心身の健康と命の大切さを感じ取ってもらうことを目的とした講習です。新入生は小グループでお互いの顔を見てコミュニケーションをとる機会を得ながら、心肺蘇生の流れを学びます。

この講習会では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与えることです。また、1 回生とサポートスタッフの教員と対話しながら心肺蘇生を学ぶことによって、社会や仲間の中での自己信頼性と自己肯定性、自己有用性を高めていけるよう配慮したいと思います。

## II. 救命講習会の目的

1. 心肺蘇生法を実施し AED を使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに 119 番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AED を使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. ブレイクアウトルームを用い、同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとることが出来る。
4. Zoom を用いた講習会を行うことで、Zoom 操作の練習を兼ねオンライン授業への足掛かりにすることが出来る。

## III. 救命講習会実施の概要

2021 年 4 月 2 日(金)、4 月 5 日(月)、4 月 6 日(火)、13:00-16:00 に新入生ガイダンスが実施されます。ガイダンス全体のタイムテーブルは以下の通りです。

13:00-13:50: 1 回目救命講習会(約 500 人)

14:00-15:00: 全学ガイダンスおよび全学機構ガイダンス

15:10-16:00: 2 回目救命講習会(約 500 人)

学生数が多いので、救命講習会の各時間帯に Zoom を 2 つ立ち上げます。1 回の講習で約 500 名、1 日 2 回、全 6 回行うことで新入生約 3000 人に指導を行います。

## IV. オンライン救命講習会の日時と学生の Zoom 割り

### 1. 救命講習会の実施日程

2021 年 4 月 2 日(金)、4 月 5 日(月)、4 月 6 日(火)

いずれも 13:00-13:50 と 15:10-16:00、1 日 2 回実施

## 2. 学生の Zoom 割り

	Zoom	4/2(金)	4/5(月)	4/6(火)
講習会 1回目 13:00~	①	理学部 (311人)	文学部 (220人)	地球工・建築学科 (265人)
	②	医学部(医) (107人)	経済学部 (240人)	物理工学科 (235人)
講習会 2回目 15:10~	③	医(人)・薬学部 (180人)	教育・総合人間学部 (180人)	電気電子工・情報学科 (220人)
	④	農学部 (300人)	法学部 (330人)	工業化学科 (235人)

(学部下のカッコ内の人数は R2 年度的人数)

## V. Zoom を使用したオンライン救命講習会について

### 1. 学生が準備している物品

- ① お座布団・枕・ぬいぐるみ・クッションなどしっかりと押せるもの(あっぱくんのハート部分の代わり)1個
- ② カード類 2 枚(AED パットの代わり)
- ③ 体重計(あれば。胸骨圧迫の強さを可視化できるが必須ではない)

### 2. 大まかな講習会内容

- ① 概要説明とメッセージビデオを視聴(全体)
- ② DVD を用いて、胸骨圧迫と AED の使い方を体験(全体+ブレイクアウトセッション)  
途中ブレイクアウトルームを用い小グループを作成。担当教員が誘導し学生同士の自己紹介したのち、胸骨圧迫の練習を行う(10分)。
- ③ COVID-19 流行時期における救命処置について説明(全体)

## VI. 役割

### A) インストラクター

講習会においてメインで指導にあたる。

### B) インスト補助

インストラクターの補助を行う。

### C) サポートスタッフ

ブレイクアウトセッション時、学生の自己紹介を誘導し、胸骨圧迫の実施を促す。

### D) ブレイクアウトルーム時のグループ分け係

ブレイクアウトルーム時に学生約 10 名に対して教員 1 名が配置されるように操作する。

### E) インターネット環境がない場合の視聴場所対応係

吉田南 4 共 30 に集まった学生に対し、感染対策を行いながら、オンラインあっぱくん講習会を視聴させる。



## VII. 役割毎の手順

### C) サポートスタッフ

- ① PandA にログインすると「**新入生ガイダンス(学部生向・2021年度)**」という6つの PandA がありますので、該当する PandA サイトにログインします。

PandA 1:4月2日(金)救命講習1回目(学部:理学、医学)

PandA 2:4月2日(金)救命講習2回目(学部:医(人)・薬、農学)

PandA 3:4月5日(月)救命講習1回目(学部:文学、経済)

PandA 4:4月5日(月)救命講習2回目(学部:教育・総合人間、法)

PandA 5:4月6日(火)救命講習1回目(学科:地球工・建築、物理工)

PandA 6:4月6日(火)救命講習2回目(学科:電気電子工・情報、工業化)



- ② Zoom ヘログイン

担当割りを確認して、ご自身が担当する Zoom のお部屋へ、遅くとも講習会開始 **5分前にはログインしてください。**



- ③ **【必須】**名前の変更

ログイン後、表示されているご自身の氏名の前に、手順書の各サポートスタッフについている「番号」と「教員」と「\_(アンダーバー)」を追記し、「氏名」をフルネームに修正してください(例:③教員\_西山知佳)。ブレイクアウトルームの作業の際に、学生と教員を区

別するためにご協力ください。ログイン後、**最初カメラはオフ、音声はミュート**にして下さい。インストラクターが自己紹介した後に人間健康科学系専攻の教員紹介をしますので、ここで**一時的にカメラのみオン**にして**手を振って下さい**。その後は、ブレイクアウトルームまでは学生と一緒に視聴しておいてください。

- ④ 10 分間のブレイクアウトルーム(自己紹介(7 分)と胸骨圧迫の練習(3 分))  
開始から約 20 分後(時間割参照)、ブレイクアウトセッション機能を使って、サポートスタッフ 1 人と新入生約 10 名の小部屋に分かれます。ブレイクアウトルームの時間は **10 分(自己紹介(7 分)と胸骨圧迫の練習(準備含め 3 分))**です。10 分経過すると全体ルームに自動的に戻るようになりますので、時間厳守をお願いします。
- ⑤ 自己紹介の誘導:7 分  
ブレイクアウトルームに分かれたら、**教員はカメラおよび音声をオン**にしてください。学生に対してカメラのみオンにするよう誘導してください。そして、教員がリードして教員および学生の一人 30 秒の自己紹介を行ってください。名前、学部、出身校、好きなことなど、7 分でおさめてください。**時間を厳守して下さい**。  
注1. 一人 30 秒の自己紹介が長引いたら終わるように声掛けしてください。  
注2. 自己紹介前にマイクのミュートを解除して、自己紹介が終わったらマイクをミュートにするように伝えて下さい。  
注3. カメラが OFF の学生がいたら、できる限りカメラを ON にするように促して下さい。

#### セリフの例

「このグループを担当します教員の〇〇です。よろしくお願いします。まず、自己紹介を一人 30 秒程度でしていただきます。お名前、学部、出身校、好きなことの 4 つをお願いします。自己紹介をする時には、マイクのミュートボタンを押してミュートを解除してから話をして下さいね。では、最初は私からします。〇〇学部の〇〇です、〇〇高校出身です、〇〇が大好きです。次は〇〇さん。マイクのミュートを外して始めて下さい。……」

- ⑥ 胸骨圧迫の準備:1 分  
胸骨圧迫の様子がわかるように、右の写真のように学生が胸骨圧迫をしている様子がわかるように、カメラアングル整えるようにお伝え下さい。なお、ブレイクアウトルームに移動する前に、全体に対してインストラクターからカメラアングルの説明を行います。



#### セリフの例

「これから胸骨圧迫の練習をするため、さっき説明があったようにカメラアングルの設定をし、自分の姿と押している物が映るようにしましょう。」

⑦ リズム音源の準備

学生の準備ができたなら、以下の赤箱で示した手順で、事前に配布された胸骨圧迫のリズム音の音源を流しつつ、声や手をたたいてリズムをとってください。



⑧ 胸骨圧迫の練習: 1分

ピップピツというリズム音に沿って1分間胸骨圧迫の練習を誘導してください(音声がながれたまま教員のカメラの映像は学生に見えています)。

**セリフの例**

「準備はいいですか？では、1分間の胸骨圧迫の練習を始めます。リズム音が1分間こえてきますので、この音に合わせて胸骨圧迫を1分間体験しましょう。」

注1. 胸骨圧迫の練習の際、手の組み方、ひじが曲がっていないか確認して

「いいね！」「その調子」「がんばれ！」など声掛けをしてください。

注2. 体重計を使用している学生には30 kg程度になっているか声掛けしてください。

⑨ 胸骨圧迫の練習終了後: 1分

1分間の練習の後、画面上部の「共有の停止」ボタンを押し、労をねぎらってください。ブレイクアウトルームは**10分で自動的に閉じます**ので、全体の講習会に自動的に移動することを伝え、マイクをミュートにしてください。

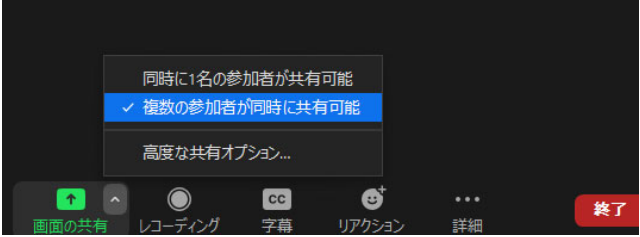
**セリフの例**

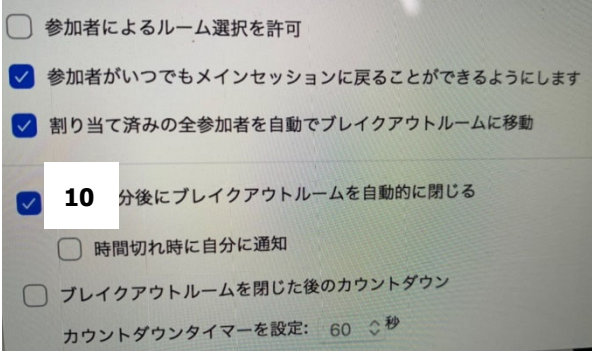
「お疲れ様でした。次は全体の講習会に自動で移りますのでお待ちください。」

⑩ ブレイクアウトルーム終了後、カメラオフ・ミュートで学生と一緒に続きを視聴して下さい。

D) ブレイクアウトルーム時のグループ分け係

1. 当日の流れ

時間	項目	内容
12:00	集合	<p>・ライブ配信が行われる国際高等教育院棟 3F31 へ PC を持って行く (予備 PC も持参する)</p> <p>・PnadA にログインすると 6 個の「新入生ガイダンス(学部生向・2021 年度)」サイトがあるので、下記を参考に担当する学部・学科のサイト内の Zoom に入る。</p> <p><b>【森瀬先生】</b>            4/2(金) 13:00-13:50: 理学部                      15:10-16:00: 医学部(人間)・薬学部            4/5(月) 13:00-13:50: 文学部                      15:10-16:00: 教育学部・総合人間学部            4/6(火) 13:00-13:50: 工学部(地球工学科、建築学科)                      15:10-16:00: 工学部(電気・電子工学科、情報学科)</p> <p><b>【松尾先生】</b>            4/2(金) 13:00-13:50: 医学部(医学科)                      15:10-16:00: 農学部            4/5(月) 13:00-13:50: 経済学部                      15:10-16:00: 法学部            4/6(火) 13:00-13:50: 工学部(物理工学科)                      15:10-16:00: 工学部(工業化学科)</p> <p>・Zoom のホストの権限を情報環境機構からもらう(森村先生へ声掛け)</p> <p>・森瀬先生と松尾先生は情報環境機構で Zoom が立ち上げされる際に、共同ホストして登録される予定</p> <p>・ブレイクアウトルームに分かれた際、サポートインストラクターがリズムの音源を共有できるように、画面の共有→「複数の参加者同時に共有可能」にチェックを付ける(下記画面参照)。</p>  <p>・Zoom に入ってきた教員、学生の音声 ON になっていたらミュートにする。</p>

13:00-13:50	救命講習会	<p>・講習会開始 5～10 分ほどしたら、ブレイクアウトルーム作成開始        学生人数を把握し 10 人程度 1 グループと考え、参加をしている        人間健康科学系の教員人数で割り何グループできるか計算する。        黒木先生と最終確認する。</p> <p>・ブレイクアウトルーム作成</p> <p>① ブレイクアウトルームをクリックし、事前に決めたグループ数        で「自動で割り当てる」を選択し、「作成」をクリックする。</p> <p>② 1 グループに割り当てる教員人数をもとに、教員を手動で移        動させる。        注1. 手順書で 2 人組になっている先生は、番号を手掛かり        にし一緒にグループに配置する。        注2. 現地対応の「4 共(現地)」というアカウントがあれば、そ        の人は、ブレイクアウトルームには割り当てをしない。</p> <p>③ 「オプション」をクリックして、「ブレイクアウトルームは次の時        間後に自動的に閉じます」のところで、「10 分」と設定する。        「割り当て済みの全参加者を自動でブレイクアウトルームに        移動」をオン、「ブレイクアウトルームを閉じた後のカウントダ        ウン」「時間切れ時に自分に通知」はオフにする。        (下図画面参照)</p>  <p>④ 準備ができれば、黒木先生からインストラクターにスケッチブ        ックを使って【OK】指示を出す。</p> <p>⑤ インストラクターが、ブレイクアウトルームの準備ができたこと        を学生に伝えたら「すべてのセッション開始」をクリックする。</p> <p>⑥ 参加人数の把握のために、(講習会が終わるまでに)人間健        康の教員人数と学生数をカウントする。</p> <p>⑦ ブレイクアウトルームがあと 1 分になったら、黒木先生がスケ        ッチブックを使って【あと 1 分】の指示を出す。</p> <p>⑧ ブレイクアウトルームが終わりメインルームに全参加者が戻        ってきたことが確認出来たら、黒木先生からインストラクター        へスケッチブックを使って【終了】の指示を出す。</p>
-------------	-------	---

13:50-14:00	休憩	ホストの権限を情報環境機構に移譲する。 * 当日、どなたに移譲したらいいか森村先生に確認する
14:00-15:00	ガイダンス	全学共通科目および全学機構ガイダンス * この間は休憩 *
15:00-15:10	休憩	15:10 からのホストの権限を情報環境機構から移譲してもらう。
15:10-16:00	救命講習会	13:00 からの講習会の内容に準じる

## 2. 想定されるトラブル対応

- ・ PCトラブル

教務のノート PC①②を予約していますので、ご自分の PC と貸出 PC を同時に立ち上げ、ログインし、その貸出 PC を共同ホストとして設定しておく体制をお願いいたします。

- ・ 学生の数が参加教員数を下回った場合

可能な限り教員を配置できるようにグループ数を多く作成してください。ただし、一グループに学生は 2 人以上、教員は一グループに対し 1 人に設定してください。また、可能性は非常に低いですが、配置できない教員がいる場合、教員だけのグループを作成したうえで、ブレイクアウトルーム開始後、そのグループに参加し「学生人数不足のため配置できなかったので退出していただき、次回の(または、翌日の)救命講習開始時間に再度参加お願い申し上げます」と伝え、そのグループから退出し、全体のセッションに戻ってください。

例: 学生 10、教員 25 人の場合

1G=学生 2 人、教員 1 人; 2G=学生 2 人、教員 1 人……。配置できない教員 20 人。

- ・ ブレイクアウトルームの途中で誤って出てしまった場合

再度ログインしてきた学生がいた場合、ブレイクアウトルームが終わるまで、メインルームで待つように指示をして下さい。

E) インターネット環境がない場合の視聴場所対応係

1. 当日の流れ

時間	項目	内容
12:20	集合	吉田南 4 共 30(3F) 伊藤先生:初日のみ、人間健康教務掛でお水(500ml を 6 本)と紙コップをもらう(お水、紙コップは現地に置きっぱなしで可。)
12:20-12:30	説明	・リーダー(江川先生[人間環境学研究科])、人間健康の教員 3 名、国際高等教育院の事務の方々(窪田さん、魚住さんなど)と顔合わせ。 ・国際高等教育院の魚住さんにて現地映像配信用の PC 準備。PandA へのログインも魚住さんの ID にて、Zoom へログイン。 ・Zoom 画面をスクリーンに映し学生に見せるが、PC のカメラは OFF、ミュートで OK。
12:30~	学生誘導	・国際高等教育院の事務の方々が学生を誘導される。
13:00-13:50	救命講習会	・映像が見やすいように部屋の照明の調整を行う。 ・Zoom の映像を学生が見ているかを確認する。 ・もし気分が悪い学生が出たら、教室後ろに誘導して休ませる。  【ブレイクアートルーム時のリーダーの役割】 ブレイクアートルームの際、「4 共(現地)」のアカウントは、Zoom のメインルームに残ったままにする。ブレイクアートルーム中、メインルームからインストラクターの姿はない。 1. PC のスピーカーを Off にする 2. もし誤ってブレイクアートルームに割り当てられていたら、ルームから退出する。 2. 冒頭に近くの人とお互い自己紹介をするように促す。 3. ぬいぐるみやクッションをつかって、胸骨圧迫のデモを行う。 4. 今回の講習会は録画されていて後日 PandA にアップされるので家でクッション等を使って練習してみるように伝える。 5. メインルームの画像(PC 画面)にインストラクターが戻ってきたら、スピーカーを On にして音声聞こえるようにする。 【ブレイクアートルーム時のリーダー以外の教員の役割】 1. 1 m 以上の距離の確保など感染対策を行いつつ自己紹介が円滑に進められるよう、数人のグループ作成や誘導に協力する。 2. 10 分経ち、スクリーンにインストラクターが戻ってきたことをリーダーが気づいてなかった際には、声を掛けるようにする。 【講習会終了後】 ・リーダーは、次のガイダンスを聞くように伝える。

13:50-14:00	休憩	
14:00-15:00	ガイダンス	全学共通科目および全学機構ガイダンス *この間は休憩*
15:00-15:10	休憩	
15:10-16:00	救命講習会	ブレイクアウトルームが行われたときの対応は上記同様
16:00-16:10	片付け	学生の忘れ物がないかを確認。 鍵の施錠は国際高等教育院(施設掛)が担当 伊藤先生:4/6(火)終了後、余った水は教務掛に返却。

## 2. 体調不良、怪我など

- ・ 4 共 30(3F)後方は、救命講習会中の救護場所とし、水と紙コップを準備しています。
- ・ 講習会中、もし気分が悪い学生が出ましたら、無理に講習を継続させる必要ありません。

## 3. 緊急連絡先

4 共 30 実施中に何か困ったことが起きた場合、下記に連絡をして下さい。

- ・ 4 月 2 日(金)および 4 月 5 日(月):佐藤隆平
- ・ 4 月 6 日(火):西山知佳

## 4. 地震・火災等避難方法

万が一、講習会中に地震・火災等の緊急事態が行った場合は、リーダーの指示に従い非常口(4 共 30 は東側(窓側))から避難するよう学生を誘導して下さい。



2021 年度新入生 3000 名へオンラインの救命講習会の計画立案、運営、サポートスタッフ手順書作成は、救命救急講習 Project TEAM メンバーおよび、人間健康科学系専攻の教員によって行いました。

【救命救急講習 ProjectTEAM メンバー】

チームリーダー	石見 拓 (環境安全保健機構 健康科学センター・教授)
サブリーダー	黒木裕士 (医学研究科・人間健康科学系専攻・教授)
チームメンバー	大鶴 繁 (医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授)
チームメンバー	田中真介 (国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	金丸敏行 (国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	佐藤隆平 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
チームメンバー	小林大介 (環境安全保健機構 健康科学センター・助教)
チームメンバー	江川達郎 (人間・環境学研究科・共生人間学専攻認知・行動科学講座・助教)
チームメンバー	島本大也 (環境安全保健機構 健康科学センター・特定助教)
コーディネーター	西山知佳 (医学研究科・人間健康科学系専攻・准教授)

【Zoom 操作担当、資料作成担当、現場担当サポート教員】

近藤祥子 (医学研究科・人間健康科学系専攻・講師)
森瀬譲二 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
岡橋さやか (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
伊藤明良 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
松尾英将 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
谷間桃子 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)

2021年度 新入生3000人救急救命講習会サポートスタッフ配置(2021.3.24現在)

日程	2021/4/2(金)				
講習会時間	13:00-13:50		15:10-16:00		
学部(学科)	理学部	医学部(医)	医学部(人間) 薬学部	農学部	
インスト	西山知佳		西山知佳		
インスト補助係	島本大也/金丸敏幸		島本大也/金丸敏幸		
ブレイクアウト ルーム係	黒木裕士/森瀬譲二/松尾英将/佐藤隆平				
現地対応	江川達郎、伊藤明良、岡橋さやか、谷間桃子				
学生人数 *	311	107	180	300	898
	① 竹之内 沙弥香・塩見美抄	① 上野智弘・金橋 徹	① 竹之内 沙弥香・塩見美抄	① 大畑光司・細川陸也	
	② 鳥井美江・近田 藍	② PATAKY T. ・ANAGNOUSTOU D.	② 山之内 智子・ドーリング景子	② PATAKY T. ・ANAGNOUSTOU D.	
	③ 山之内 智子・ドーリング景子	③ 稲富宏之・林 悠	③ 伊吹謙太郎・福岡真悟	③ 稲富宏之・林 悠	
	④ 伊吹謙太郎・福岡真悟	④ 清水彬礼・平和也	④ 下野昌宣	④ 任 和子	
	⑤ 石津浩一・下野昌宣	⑤ 任 和子	⑤ 木下彩栄	⑤ 田村恵子	
	⑥ 谷一靖江・西中瑶子	⑥ 田村恵子	⑥ 若村智子	⑥ 古田真里枝	
	⑦ 大畑光司・細川陸也	⑦ 古田真里枝	⑦ 恒藤 暁	⑦ 松岡真里	
	⑧ 谷口匡史・榛葉旭恒	⑧ 松岡真里	⑧ 白井由紀	⑧ 清川加奈子	
	⑨ 木下彩栄	⑨ 清川加奈子	⑨ 近田 藍	⑨ 清水彬礼	
	⑩ 若村智子	⑩ 椎名 毅	⑩ 鳥井美江	⑩ 平和也	
	⑪ 恒藤 暁	⑪ 精山明敏	⑪ 岡 昌吾	⑪ 椎名 毅	
	⑫ 白井由紀		⑫ 高桑徹也	⑫ 精山明敏	
	⑬ 岡 昌吾		⑬ 笹山 哲	⑬ 藤井康友	
	⑭ 高桑徹也		⑭ 徳野 治	⑭ 鎌田真由美	
	⑮ 笹山 哲		⑮ 西中瑶子	⑮ 野中元裕	
	⑯ 徳野 治		⑯ 榛葉旭恒	⑯ 上野智弘	
	⑰ 上久保 靖彦		⑰ 谷一靖江	⑰ 金橋 徹	
	⑱ 青山朋樹		⑱ 上久保 靖彦	⑱ 近藤 祥子	
	⑲ 谷向 仁			⑲ 前田祐子	
	⑳ 山田純栄			⑳ 加藤寿宏	
	㉑ 澤本伸克			㉑ 梁 楠	
	㉒ 近藤 祥子			㉒ 田畑阿美	
	㉓ 野中元裕			㉓ 石津浩一	
	㉔ 杉本直三			㉔ 建内宏重	
	㉕ 前田祐子			㉕ 青山朋樹	
	㉖ 加藤寿宏			㉖ 谷口匡史	
	㉗ 梁 楠			㉗ 谷向 仁	
	㉘ 田畑阿美			㉘ 山田純栄	
	㉙ 建内宏重			㉙ 澤本伸克	
	㉚ 藤井康友			㉚ 山田重人	
	㉛ 鎌田真由美				
予備教員	中村光宏		杉本直三 中村光宏		

2021年度 新入生3000人救急救命講習会サポートスタッフ配置(2021.3.24現在)

日程	2021/4/5(月)				
講習会時間	13:00-13:50		15:10-16:00		
部局	文学部	経済学部	教育学部 総合人間学部	法学部	
インスト	島本大也		島本大也		
インスト補助係	西山知佳/金丸敏幸		西山知佳/金丸敏幸		
ブレイクアウト ルーム係	黒木裕士/森瀬譲二/松尾英将/佐藤隆平				
現地対応	江川達郎、伊藤明良、岡橋さやか、谷間桃子				
学生人数 *	220	240	180	330	970
	① 木下 彩 栄	① 任 和子	① 若 村 智 子	① 田 村 恵 子	
	② 恒 藤 暁	② 田 村 恵 子	② 木 下 彩 栄	② 古 田 真 里 枝	
	③ 白 井 由 紀	③ 古 田 真 里 枝	③ 恒 藤 暁	③ 松 岡 真 里	
	④ 竹之内 沙弥香	④ 松 岡 真 里	④ 白 井 由 紀	④ 塩 見 美 抄	
	⑤ 細 川 陸 也	⑤ 塩 見 美 抄	⑤ 竹之内 沙弥香	⑤ 清 川 加 奈 子	
	⑥ 鳥 井 美 江	⑥ 清 川 加 奈 子	⑥ 細 川 陸 也	⑥ 清 水 彬 礼	
	⑦ 古 谷 和 紀	⑦ 清 水 彬 礼	⑦ 鳥 井 美 江	⑦ 近 田 藍	
	⑧ 山之内 智子	⑧ 近 田 藍	⑧ 古 谷 和 紀	⑧ ドーリング景子	
	⑨ 平 和 也	⑨ ドーリング景子	⑨ 山之内 智子	⑨ 精 山 明 敏	
	⑩ 岡 昌 吾	⑩ 精 山 明 敏	⑩ 平 和 也	⑩ 藤 井 康 友	
	⑪ 高 桑 徹 也	⑪ 藤 井 康 友	⑪ 下 野 昌 宣	⑪ 稲 富 宏 之	
	⑫ 伊 吹 謙 太 郎	⑫ 鎌 田 真 由 美	⑫ 高 桑 徹 也	⑫ 鎌 田 真 由 美	
	⑬ 笹 山 哲	⑬ 野 中 元 裕	⑬ 伊 吹 謙 太 郎	⑬ 野 中 元 裕	
	⑭ PATAKY/ANAGNOSTOU	⑭ 上 野 智 弘	⑭ 笹 山 哲	⑭ 上 野 智 弘	
	⑮ 徳 野 治	⑮ 西 中 瑠 子	⑮ PATAKY/ANAGNOSTOU	⑮ 西 中 瑠 子	
	⑯ 谷 一 靖 江	⑯ 榛 葉 旭 恒	⑯ 徳 野 治	⑯ 榛 葉 旭 恒	
	⑰ 金 橋 徹	⑰ 市 橋 則 明	⑰ 谷 一 靖 江	⑰ 市 橋 則 明	
	⑱ 下 野 昌 宣	⑱ 山 田 重 人	⑱ 金 橋 徹	⑱ 青 山 朋 樹	
	⑲ 青 山 朋 樹	⑲ 近 藤 祥 子		⑲ 中 村 光 宏	
	⑳ 林 悠	⑳ 椎 名 毅		⑳ 近 藤 祥 子	
	㉑ 大 畑 光 司	㉑ 加 藤 寿 宏		㉑ 谷 口 匡 史	
	㉒ 谷 口 匡 史	㉒ 梁 楠		㉒ 林 悠	
		㉓ 田 畑 阿 美		㉓ 谷 向 仁	
		㉔ 石 津 浩 一		㉔ 建 内 宏 重	
				㉕ 加 藤 寿 宏	
				㉖ 梁 楠	
				㉗ 田 畑 阿 美	
				㉘ 石 津 浩 一	
				㉙ 岡 昌 吾	
				㉚ 澤 本 伸 克	
				㉛ 任 和 子	
				㉜ 椎 名 毅	
				㉝ 大 畑 光 司	
予備教員	杉 本 直 三 中 村 光 宏 若 村 智 子 建 内 宏 重 澤 本 伸 克 稲 富 宏 之		杉 本 直 三		



2021年度 新入生3000人救急救命講習会時間割 (2021.3.11現時点)

場所:Zoom

日時:2021年4月2日(金)5(月)6日(火)13:00-13:50と15:10-16:00

目標

1. 心肺蘇生法を実施しAEDを使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに119番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AEDを使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. ブレイクアウトルームを用い同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとることが出来る。
4. Zoomを用いた講習会を行うことで、Zoom操作の練習を兼ねオンライン授業への足掛かりにすることが出来る。

😊 先生方に個別対応していただきたい項目

	時刻		項目	実習項目とお願い
導入	13:00	～ 13:05		・あいさつ ・写真と録画の説明 ・物品の確認
	13:05	～ 13:11	メッセージビデオ	動機づけメッセージビデオの視聴
展開	13:11	～ 13:14	第一話	胸骨圧迫の位置のDVD視聴及び確認
	13:14	～ 13:15	第二話	119番通報とAEDの要請のDVD視聴
	13:15	～ 13:16		119番通報とAEDの要請の練習
	13:16	～ 13:18		呼吸の確認のDVD視聴
	13:18	～ 13:19		呼吸の確認の練習
	13:19	～ 13:21		・胸骨圧迫実施方法のDVD視聴と胸骨圧迫の説明 ・ブレイクアウトルームに分かれる説明
	13:21	～ 13:22		ブレイクアウトルームに分かれます。
	13:22	～ 13:29		😊 教員と学生の自己紹介をしてください。
	13:29	～ 13:32		😊 ・カメラアングルを整えさせて、胸骨圧迫を60秒体験させて下さい。 ・カメラがOnの学生には胸骨圧迫がうまくできているかフィードバックをして下さい ・リズムの音声を共有して、リズムに沿って圧迫するように声掛けをして下さい ・メインルームに戻って全体実習に戻ることを説明して下さい。
	13:32	～ 13:34		胸骨圧迫の交代の説明
13:34	～ 13:41	第三話		AEDの使い方の説明と練習
まとめ	13:41	～ 13:50	まとめ	新型コロナウイルス <sup>15</sup> レス感染症対応の説明とまとめ